

仕事常識

④ 時間を創る

川本 裕子さん

マッキンゼー・シニア・エキスパート



時間を有効に使うには、まず自分の時間コストに敏感であることが大切です。何にどれだけ時間を使ったのか、それだけでだけの価値を生み出したのか、と一日の終わりに振り返ること

他人の時間にも気配りを

果が組織の業績にどう結びつくかを考えることは、時間の使い方を建設的に組み立てるために必須です。自分の時間を大切にすることは他人の時間を大切にすることもありません。よく、会議などで本来の議論から離れ、持論をえんえんと述べている人を見かけますが、その場にいる人全員が、その場が無駄になります。

仕事の結果を厳しく問うことと長時間労働とは別のことです。むしろ、部下の業績をきちんと客観的に評価しない管理職ほど、外形標準的な勤務時間の長さで判断する傾向にあるといえないでしょうか。善意のつもりで、つきあいの強要をしていないでしょうか。豊かな時代に生まれ育つた若い世代は家族と過ごす時間などを大切にし、感覚も価値観も

は意義深いと思います。

一日分の給与はその日自分が行った仕事の「価値」と比べて過不足があるかどうか、考えてみるのです。もちろん、仕事の成果がすぐさま利益に結びつくわけではありません。

しかし、自分の行動の結

十人が集まって会議を1時間すれば、一人当たり1件費×1時間分×10のコストです。それだけの時間をほかに使った場合に生み出されていたであろう価値が犠牲になっているわけです。

「普通の国」並みになってきている気がします。職場の意思疎通がうまくいかなければ組織のパワーは発揮されませんが、一方で個人がプライベートな時間で十分リフレッシュし、意欲を高めることも組織の生産性を上げるには不可欠です。管理職の立場にある方々は、今一度、職場での時間管理を振り返ってみてはいかがでしょうか。

私のビジネスステク

これまで、「企業戦士」と言われた管理職の人たちには、知らず知らずのうちに自分や部下に長時間労働を強いていないでしょうか。

これまで、「企業戦士」と言われた管理職の人たちには、知らず知らずのうちに自分や部下に長時間労働を強いていないでしょうか。